

逐次刊行物
昭 58.6.15 和
国立婦人教育会館
情報図書室

1983年6月号

1983年6月5日発行(毎月1回5日発行)

No.82

あんふあんて

発行人/ 発行所/ あんふあんて出版部
定価/ 100円 振替口座/ あんふあんての会 電話/

きもち いろいろ

このごろの天気は何てよく変わるんだろう。
ちょっと晴れたと思ったら
曇って雨になって……。

晴にもさわやかさとむし暑さと
うす曇にどんより雲。

ポツポツから小雨、ザアザア本降り。
さやさやとした風、ざわめく大風。

人の気持ちを写すような気がするのです。
こんないろいろな表情。

「妻」や「母」や「嫁」の三色ぐらゐに
自分をはめこまないで
もっとたくさんの「女」の気分
時々持っていたいと思うのです。

イラスト 詩 市川市 加藤 油谷



グループ 訪問 シリーズ



ミニミニ幼稚園を訪ねて

ここは、杉並区西荻北児童館を拠点に共同保育しているグループです。実際にできたのは六年前です。事故のことなど考えて保険があるからということ、あんふあんの会員のなるのが条件の一つとなっていました。活動は、火・木・土の九時半から十一時半です。いちおう三才児対象で、就園前の子どもが主体です。この四月から二十六人の子どもを四人の母親が交代でみています。会費は月百円です。あと保育内容として、季節の行事（遠足、手廻り、クリスマス会、お別れ会）をとりいれています。ミニミニ幼稚園の目的としては、就園までの子どもがすんなり幼稚園になじめるようにということと、遊び場が少ないこの頃、みんな遊べる場を作ろうということとです。

五月晴れのある日、リーダーのKさんのお宅で、サブリーダーのKさんもお集まり、話を伺ってきました。話を聞いて、ここは実にスムーズに運営が行なわれていると感心しました。児童館を借りてやっているのが、館は保育内容等一切ノータッチで、場所がきちんとして確保されているのが、一番の利点のようです。募集の方法も特別にするのではなく、口コミで「良さ」が伝わっている、今は二十六

人定員満員で、入れずに待機中という人もいます。四苦八苦しながら、広報や貼紙等で共同保育を呼びかけるのは、えらい違いです。いちおう三才児の就園前の子どもが主体なだけで、二才の子も少数いて来年はその子たちがひきつぐという感じですね。こうやって六年前、次々とひきつがれてきたようです。保育担当以外の母親たちは、火・木・土の週三日、時間も二時間と短かいのですが、それでもデニス、おけいこ、家事、片づけと子どものいない間を自分の時間に使っているようです。保育担当にならざる親の方も、他の子を見て自分の子と比較できるし、いろんな子たちがいてとても面白いということです。共同保育が終了したあとに預け合いをしたりする人もいます。親は人間関係が広がってきたく、子どもも楽しみたいという気持ちが、この定例会では、親が勉強していくのだというところで、司会は交代でやり、又他人の前できちんとして自分の意見が言えるようにしようとして話しているようです。受け身だった親も、一年近くたつと、はっきりと自分の意見を述べるようになってきたとのことです。

二人のKさん、忙しい時間をさいてくださってどうもありがとうございます。ミニミニ幼稚園で親も成長しています、との事。何もかもいいことづくめのようです。でも新体制で始まったばかり、これからいろんな問題が出てくると思います。二人のKさん、これからも親子ともいきいきと過ごせる場づくりに、がんばってくださいね。（文責 砂田）

共同保育 始めました!!



中野区

「共同保育をやりました。」と威勢のいい文を去年の10月号にのせて以来、はや季節は冬を過ぎ、春も終わりであります。その間、公園に集る仲間が次々と「共同保育やらないかい。やりましょうよ。」と声をかけ、その度「自分の子だけでいいじゃないか」と人の子まで「自分もいいけど……」とか、割と打ちのめされて落ちこむ事が多い日々で、共同保育の夢も少しぼやけ、十一月に三歳になる娘の幼稚園の入園手続をしました。

ところが、それで共同保育をあきらめると思いきや、そこは下に一歳になる子もいる事だし、春になって再びしつこく声をかけ、やっと四月から週一回、四人の母親と八人の子供のメンバーで始める事ができました。三歳になる娘は幼稚園から帰ってからの参加という事で、他は二歳が三名、一歳が一名、〇歳が三名と、年齢が低い事もあって、三人の母親が子どもをみて、一人が外出なり何なりをするという形です。

まず、朝十時半に近くの公園に集合し、ぬける母親が子どもを引き渡し、自由にお昼まで遊ばせます。赤ちゃんもベビーカーで見物

したり、おすわりして仲間に加わります。昼は各自のお弁当を公園や、曇る日はメンバーの自宅を開放して、そこで食べたり、臨機応変にかえ、また別の公園へ行ってみたい、児童館で遊んだりして午後二時まで過します。六ヶ月から一歳前後でちょうど人見知りの時期なので、保育当番の三人は親をさがして泣く子をあやしたり、抱っこしたり、ミルクをのませたりと忙しく、終る頃にはぐったり。外出した母親も、子供が泣いていないか気にかかり、時間もあっという間で、走ってもどってきてもこれまた忙しく疲れた。という具合で、週一回とはいえないなかなかならざるというのが正直な所です。

共同保育の様子、当番がノートに記入し自分の日頃思っている事を書いていたりして、本音の部分で理解するの役に立っています。その他に月一回保育についての様々な問題や活動の方向を話し合ったりする機会を設けています。またクリスマスやひな祭りなどの行事や花火大会などの催し、春と秋の子どもの服のバザーなど、みんな積極的に「やろう、やろう」と盛り上がり、共同保育が念願だった私としては、今更に気分がいいです。

近所同志という事もある、それまでも二年近くお互い行ったり来たりした下地があるので、スムーズに共同保育は進んでいます。まずはしかり方の問題。「自分の子も他人の子も同じように育て合おう」とは言っても、「そんなに厳しくしなくても……」という人と、「そういう事はやめさせた方がいいのでは……」と様々で、なかなかまとまりません。「新エミール」や「育児力」を読み合ったりするの

ですが、単に大人のルールを押しつけるだけでなく、子供の気持ちを理解し納得した上での対応の仕方を考えてみる必要がありそうです。ダメやめなさいの連呼にみんな悩んでいるのです。今後もう少し人数もふえて、子どもの年齢もあがってくると、遊び方を工夫したりして楽しいものになってくるのではないかと期待しています。

さて、共同保育に平行して、幼稚園へ通い始めた娘の送り迎えでかなり忙しい毎日です。三歳で入る事に、私の両親や親せき、姑、近所の人たちも「そんなに早く入れる必要はない」と反対していたのですが、「私自身生活に何か変化が欲しいし、幸いよく遊ばせてくれる園だし、一つ世界が広がるのも良いではないか」と押しきってしまいました。今の所娘は楽しそうで、歌や踊りを先生の口調で私に教え、得意そうです。

先日母親懇談会に出席した際に驚いた事は、とにかくフワッショナブルでスーツを着てきた人もいたほど。「他に着ていく所がないのかしら」と思ってしまった。また自己紹介で私が一番で「三谷」です。と言ったのですが、次の人からズラッと「三谷」の母です。……つい公民館の延長の気分でした。三谷「あ、幼稚園とは——の母としての場なんだ。」と改めて気づかされた感じがします。

幼稚園へ行き始めて、それまでずーっと一緒だった子が親の知らない新しい世界を自分の中につくっていつてくるんだなという感慨があります。子どもが成長していく分、親の方もがんばらなくてはね。

あんふあんてから
あんふあんてへ



又、会う日まであんふあんて

新宿区

さわやかな季節になりましたが、皆様御元
気でしょうか？

「クロワッサン」であんふあんてを知って入
会してから、三年くらいのような、四年くら
いのような。育児ノイローゼから、ペンを
もつと字がかけなくなる症状は、今も少し残
り、この手紙も正常な持ち方では、二行とつ
づかない有様です。

しかし、まあなんとか子供も五才になり、
母親の方も余裕がでてほっとしている矢先、
四十を前にモンモンと（ここで亭主、紅茶と
シュークリームを持ってきてくれる）我が人
生は、これでおしまいかと悩みつづけた亭主
が、もう一度勉強しなさいとばかり、マイホ
ーム？のために、貯めたあり金はたいてフラ

ンスへ留学することに決めました。身分の保
障された留学と違い、自分もちのそれですの
で、先行きメチャメチャ不安ですが、六月六
日、奇しくも習い事を始める日に、三十七才
同志の中年夫婦が、勉強のために五才児をつ
れて渡仏します。住む所も決まらずに、
借家をたまたま、家財道具を処分して実に不安
です。

というわけであんふあんてとも、しばらく
御縁を切ることにしました。
私のまわりにも、小さい子供をかかえて、
まだまだいらつきふさぎ込み、悩んでいる人
が一杯です。あんふあんてが途切れることな
く大きい輪に広がっていくことを願っていま
す。

亭主の入れた紅茶は苦いです。けれども私
も案外「女房」という「権力」をカサにきて
彼の好みをないお茶を入れ、それを飲むこと
を強要しているのかもしれない。それぞ
れが自分のことは当然のこととして自分で
するのは、いつになつたらできるのかと思いま
す。かくいう私とて、仕事もたず他人の稼
ぎでたべているのですが、フランスへ行つた
ら、たつた三年間で、子供が二才の誕生
日からはじめたリトグラフを、何としてでも
つづけたいと思っています。それで金はい
られないでしよすが、自分自身を少し違
度でみられるようです。

まるで仲のよい気らくな友人にかく手紙に
なつてしまいました。今まで「あんふあんて」
をよみつづけて「あんふあんて」が私にとつ
てそうした対象だったと、今、あらためて知
りました。長い間、励ましてくださりありが
とう。さようなら。



一度やったらやめられない
——選挙運動ボランティアのおすすめ——

(市川市)

先月号に、国立市議選の応援をした室田さ
んの「あなたも市議員になっちゃえ」とい
う、過激な（？）アジテーションがのって
いたけれど、もう少し健康路線のお勧め。題
して「あなたも応援しがいのある市議員を
探せ」

全くの個人的好みなのだけれど、ずっと以
前から、浦和市議の（今回から県議）小沢遼
子さんのファンで（何たるミーハー！）地
元にも彼女みたいな革新系無所属の人がい
れば応援するのに、と思いつけていた私。四年
前の市議選に、住民運動から立候補を決めた
O氏には、当時から熱い視線を送っていたの
です。とはいえ、前回は特に手伝うほどのき
っかけもなかったのが、今度はウチのダンナ
からも自分のかわりに手伝えなんていうお達
しはでるし、（地元の公務員なので選挙法違
反のおそれあり）私も手伝いたかったしで、
珍しく夫婦の利害が一致したのでした。

それにしても、亭主公認で何かやることの
ラクなこと、結婚して七年目にして初めての
経験。今までは「あんふあんて」にしろ、
戦争への道を許さない女たちの千葉の会に
しろ、いつだって亭主のヒボウ中傷、はては
ドウカッにも耐え、イヤな顔を無視し続け
てやってきたわけだから、まさに天国と地獄
の差なのです。とりわけ、葉書きの宛名書き
を子供が寝静まった夜更け、向かいあつてせ
せと書いていたりと、自然と「夫婦の
会話」らしきものが生まれてくるのは、予期

せぬおまけでした。考えてみれば、共通の、
はつきりした目的にむかってやっているわけ
だから当然かもしれないけれど、逆に、普段
の生活で会話が成り立たない理由を考えてし
まいます。

ともかく選挙運動期間中に、私が実際にや
ったことといえば、この宛名書きの他には、投
票依頼の電話、そしてウグイスオバサンを半
日に、おかずの差し入れを一回。その程度の
ことしかできなかったけれど、それだけでも
日常の雑事のあいまいにこなすには目いっぱい
という感じ。選挙カーにのった日は、子供は
家でおばあちゃん（夫の母）にみてもらた
ので、やはりシワ寄せをうける人の身になれ
ば、あまりいい顔もできないのは当然で、だ
からも亭主公認でなく、私一人が選挙に入
れこんだとしたら家中に摩擦をおこしたの
は確かでしょう。

運動をやる側（？）に初めてまわってみて、
気がついたこと。まず、選挙カーでの団地め
ぐりで、車から降りて演説するO氏のわきに
立ってみると、十何階建の高層団地の一軒一
軒がやけにはっきり見えるのです。ペランダ
に出ている人は本当にバラバラですが、その
人たちの反応までよくわかります。熱心に聞
いてくれる人には（数人でしたが）、自然と
最敬礼したくなつたほどでした。あなたも、
ひそかに応援する議員がいたら、もっと派手
に手などふってあげて。喜ばれること受合
い。次に電話。今まで、選挙でかかってくる電
話ぐらい頭にくるものはない、と思つていた
私がかかる側にまわるのだから、最初は胃が
痛くなる思いでした。アルバイトで事務的に

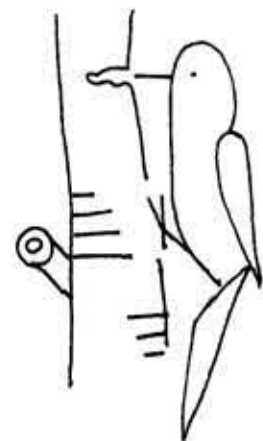
「赤ちゃんにビタミンKを」の記事を読んで

品川区

五月五月付朝日新聞の「赤ちゃんにビタミ
ンKを」の記事をこらんにになりました。内
容は母乳栄養児の千七百人に一人の割合で発
病している「ビタミンK欠乏性出血症」の予
防のために「すべての」新生児にビタミンKの
シロップを投与することを厚生省が前向きの
姿勢で検討中とのこと。この病気がビタ
ミンKを投与することで治るので、母乳中の
ビタミンK不足が原因とみられていても、本
当の発病の仕組みなどはまだよくわかってい
ないのです。それなのに「すべての」赤ちゃん
に投与したらどの様な副作用が出るかわか
りません。恐ろしさを感じます。ビタミンKは
普通の食事をしていれば自然に体内にあるそ
うですから、もっと妊婦への指導など研究し
て欲しいと思います。

ちょうどこの記事の裏面では百人に一人生
まれている先天性心臓奇形の赤ちゃんが、こ
の病気を救うための設備と医師不足ゆえに助
かる子は非常に少ないという記事がありまし
た。新生児外科手術等の設備さえあれば助け
られるというのです。赤ちゃんにビタミンK
の投与を考えようなどという前に厚生省でや
るべき事がもっとあるのに、と思います。

かけるのなら、割切ってかけまされるけれ
ど、何とか一票でも欲しいと思つてかけるわ
けだから、少しでも好印象をもってもらうに
はどうすればいいかと頭を悩ましたのでした。
忙しい時にかけては逆効果だし、夜は気がひ
ける。それに「〇〇をよろしく願います」
式の電話はど人かをバカにしたものはない、と
つねづね思っていたので、何とかがうスタ
イルにしたと試行錯誤をくり返していると
一時間で何本もかけられず、という具合。そ
れでも、イヤな顔が目につくかぶ電話の音が続
いた後で、「Oさんに入れるつもりでしたよ」
なんていう弾んだ声にぶつかる、本当に飛
びあがりたいたくさったのでした。
そんなこんなで二週間が過ぎて、いよいよ
投票日の24日の夜は、開票即報の出る千葉テ
レビのチャチャする画面に夫婦でかじりつき。
ところがなかなか市川が出ないのです。イラ
イラしながら待つうち、ようやく一回目が出
たのが十二時すぎ。O氏の当確はまだ出ない
ものの、予想を上まわる順位でホッとす。
（なにしろ前回は一から二番目のギリギリ
当選）午前一時半頃、当確が出るのを見てか
ら眠りについたのでした。バンザイ！



あんふあんてから

あんふあんてへ



— おたよりから —

名古屋市

大学四年の女学生。結婚する予定も、母や妻となれる予定はもうろく、就職さえ未定。それでもなんだかんだといっている夢はある。だから、あんふあんてもためになる。今回（八十一号）は、なんだかほのほのとしてよかったな。私もサークル（地域ボランティア）手話、時々託児とがんばっています。お母ちゃん方ががんばって

山口県

こんにちは。春のボカボカ陽気というよりもなんだかムシ暑い一日でした。五月号を受けとって、いつものように読みます。『ア』私も書かなくちゃ』と思いついたら、自分の名前をみつけてびっくり。署名した時のメモでしようね。パンも初めて焼いて、スカートを直して、あっちこっちでおしゃべりしてと平穩無事な生活でトントトト書きつづけています。安んじかけられたらなあと思っています。

今、私の夫は四男ながら、兄さん達が遠くに住んでいるので夫のおばあちゃんと同居。上の二人は幼稚園に入っただけ、静岡の例会にも出席したいと思いつく、第一火曜は種々行事があり一度も出席したことありません。静岡にいた時は共同保育をしていたのですが、今後近所の方とまた共同保育を始めたいと思っています。

甲府市

私みたいな転勤族にとって「あんふあんて」って、何かよりどころで会員になっていて、安心していらるような所があります。残念ながら山梨には、会員がいなくて、大宮あんふあんての中にいます。友だちができました。当分は読むだけの会員となりますが、山梨のような閉鎖的な所にいると（自分自身も今、閉鎖的になっていくのでしようが）会報の中に仲間をみいだしホッとします。

開門前にへいを乗り越えて席とることをのらないようにお願いします。これは小学校の運動会のお知らせの最後にあつた一行。そんなに盛り上がりだっているのか。『白組が優勝してもいいかな？』『いいとも！』の応援合戦が始まったプログラム。だが進むにつれて見物人が減っていく。しばらくしてその理由が分かった。ナントこども達は教室で、近くの親は家に帰って昼食なんですって。シラケていいとも！

大山

雑感

所沢市

こんにちは。末っ子が一年生になって一ヶ月。給食が始まりそうじ当番もそのうち回り、火曜日は五時間授業！待ちに待ったこの刻。それでも少しの寂しさ。共同保育だったのでもいつも一緒だった親子。『お母さんの教科書も先生からもらってきて、一年二組八番になって尊の横にすわって勉強するから』と息子をからかい、新しい環境に飛びこんでいける性格から毎朝泣きべそをかき登校する息子の様子。夫からは『二人で（私と息子）別れを惜しんでいるんじゃないのか』とからかわれる。そんな一ヶ月、でもやっぱり嬉しいムフフ。体内に子を宿らせてから十二年。花の二十代は子育てとカネのやりくりで消えた。悪夢のような子育て戦争。その中で私を支えてくれた子供達。男ばかりの三人兄弟は、のびのびと育ち実によく仲がいい。長男は下二人の絶対君主で親より威力がある。こうなると欲しかった。夫はそんな長男に嫉妬を感じるようだった。夫は怒鳴っているだけではない。こうなる歴史を彼は創ってきた。園外にいた夫が太刀打ちできるわけがない。長男は私にとって唯一の物理的、精神的助力者だった。今、冗談を言いあえ、通じあえることに、熱い思いを伝え得ることに、人間同志のつながりを感じてうれし。自分一人で充分楽しんでから、話す事が多い。自己中心、自己愛が強い母親でもある。今がそのまっ最中。あれもやりたい、これもとあれこれかじり、友だちの家にも遊びにい

き満喫している。「ああ、私は何でもやれる。私は自由だ！」（今の社会に「自由」なぞカケラもないけれど）

けれど考えれば、これは恐いことだ。自分自身がためされ、はつきりとさらけだされる。もう誰にも責任転嫁できない。歯が欠け、しわだらけの顔を絶望の思いで見ながら、それでも私は判るのだ。「私の人生は、これからだ。」

今、育児に悪戦苦闘しているあなた。育児ノイローゼからくる母子心中記事に身につまされる私。白壁から、社会通念・現状から孤立させられている若い母親たち。育児に息をついた私達は伝えなければいけない。

あなたのお悩み、イライラはあなた一人のものではないこと。子供がかわいいと思う母性本能が沸かなくなると、不自然ではないこと。そんな暇あるもんか。オー「母性本能」なんてもん自体、削り出されたもの（誰に？もちろん、それが無ければ不都合をこうむる者ども）存在しないものなのだ。親子泣きながら育て創りあげていく関係から、やがて育児を楽しむことができるのではないか。まわりから力を借りられれば、より楽しめ未練なく子供から離れられる。

「プラス・ラプ」（サンリオ出版千五百円）を手にとるとパッと目に飛びこんでくる。

「母性本能という神話の終えん」これだけで、どれ程の母親がホッと息がつけるかしれない。（三十年以上も前、ボーグ・ワールは、母性本能に疑問を投げかけて多くの心理学者や、社会学者も同様の発言をしている。女性を縛り身動きさせないものの、ホンの

端でも見えたなら伝えてみよう。さりげなく。ほとばしる思いは、息子やまわりの人に見せてもいいけれど――

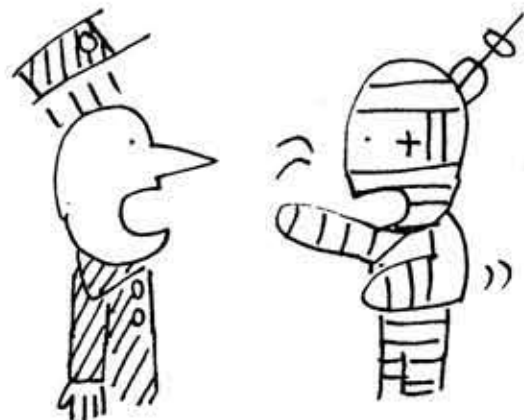
それ位の芸当は、私にもできる、と言えるようになった。それまでとくら、やたら突っ走るだけだった。これから勉強をしたい。バイトをしてきたので授業料は何とかなる。私は今まで一円も自分に投資してこなかった。何もない丸裸だ。深くてよい？私はこれから自分で選んで歩いていかなければならない。私はようやく大人になった気がする。

宝塚市

『母原病』を読んだ感想です。随分前のこと、思いがけいもあるかもしれませんが。ア、私も母原病だったんじゃないかしら、それに母原病にもなりそうと、戦慄したものです。一方で、母親にのみ責任を負わしかねない空気に反発、母親と病原体にまで仕立て上げてしまう恐るべきガン細胞のような存在に斬りこんでいない不満もありました。でも、その論議は後にして、ともかくも、母親という存在が病原体になり得るという事実は謙虚に受けとめねばと思います。それは自分の中に刃物を突き立てるに似たことかもしれないけれど、あんまりだ、ひどい、などと言うのは、アマエではないでしょうか。ギリギリまで自分を問うことしか、ガン撲滅の方法はないと思います。母原病という言い方、実は母親会なの父兄会と言うが如し、とは思いません。ちなみに、私の母がこの本を読んだ感想は、「こんな信じられない」でした。

原稿募集中！

初夏という感じでとても素敵な季節になりました。いろいろ出歩く機会も多くなるこの頃、あなたが感じた事、思った事、怒ったこと、楽しかったことなんでも書いて送って下さい。待っています。詩やイラストもね。



スタッフ募集中！

容姿、年齢、学歴問わず、もちろん子供持ちOKのあんふあんてスタッフを求めています。拘束時間自由、無給、手弁当といことづくめです。時間が少しあるわ、何かやってみたいなという人はすぐさま事務局に電話してください。

なぜ、いま山村留学か (1)

港区

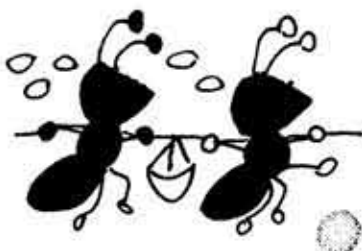
母の日に、山村留学をしている息子から手紙が届いた。

「おかあさんへ、まい日まい日しごとをして、少ししかねむらないで、ぼくを八坂にいさせてくれてありがとう。いえのことやしごとのことやねこのことや、いろいろあって大へんだと思いますけど、がんばってください。ぼくもがんばります。」

学校の作文の時間にも書いたらしく、原稿用紙にいつになくしつかりした字と文じ、親バカの私は思わず涙してしまふ。

私の一人息子、は、いま小学校二年生。この四月から財団法人「育てる会」が運営する「育てる村学園」八期生として、長野県北安曇郡八坂村の小学校へ、毎日四キロの山道を通学している。学園では十月のうちに三週間の野外活動センターで合宿する。いまは、同じ二年生の男の子と六年生の女の子二人をきょうだいとし、80歳のおばあちゃんとともに女手で農業を営む人を「お母さん」と呼んで暮らしている。このゴールデンウィークに私も、里親へのあいさつと授業参観のため八坂村へ行って見たが、子どもはすでに一ヶ月にして色黒く、ぜい肉がとれて引締まり、ガケやあぜ道を泥だらけになってすべりおりていた。広い農家がうれしいらしく「お母さん、東京のうちはせまくてかわいそうだね」など

働くことを考える シリーズ



仕事はうまくいっているって、風の便りにきいたけど、オオイノ元気がいい?

秋元さん、最近とんとお顔を拝見しませんが、仕事が多忙にキツいんでしょうか。編集スタッフの漫性不足の内情はよく御存知でしょうから、仕事のペースも安定すれば、そのうちあんふぁんてにも出ていらつしやるだろうと、ジッと待っているのに、未だその気配もなく、あなたは一体どういうおつもり? もともとあんふぁんてには、サアサアはつきりカタをつけてよと迫るような体質はないけれど、あなたはいい加減からは程遠いじつくり型と思うから、一度聞いてみたいと思うんだけど。(いい加減人間はこの私です。)

秋元——うーん、忙しい時は本当にタタタタ、夜中に家に帰ってバタンキューっていうこともあるけど、そういう忙しい時やひまな時の波も含めて、自分の仕事(写稿)のペースについているのは出来てきたわね。

——じゃそろそろ仕事以外の事もできそう? 秋元——それがねえ……

——まず三年前に「たんぼぼ」の解散、こども入学、それにだんなの職場イヤイヤ病(高校教師)が重なって、お金のもらえない仕事

という。

「マミール」という雑誌で山村留学の記事を読んだのは、確か子どもが三歳の頃だったと思う。子どもは自然の中で育てたい、と思っていた私は即座に心を決めた。この麻布台のアパートにも、都心にしては珍しく周囲に緑は多いが、駆けめぐる山野はない。少くとも一年、親の手から放しても自然の四季を見せてやりたい。自然の素晴らしさを、そして厳しさを教えたい。小学校二年での留学を心に決めての年待ち、保育園を終える年、「育てる会」の会員となる。山村留学は小学校二年から中学三年までが対象だが、一年生からいきなり山の学校では親子ともども心の負担が大きかろうと思ったからである。またいづれ帰ってくる時のために、こちらの小学校で友だちをつくっておく方がいい。

会では春、夏、冬と各種の野外活動行事も行ってたから、まず入学を待つ春休みには、スキーに参加させた。一年生の夏休みには、18日間、八坂村での山村生活体験。この時は「おかあさん、ぼくもうかえりたいです。ぼくはいじめられて泣いてばかりいます」といった手紙がくるばかりで、二年生で留学の夢は砕けたかと、私は狼狽したものだ。しかし、新宿駅で迎えた子どもは意気揚々。目が輝いていた。「もっといたかったよ。今度はいろいろ班に行こうかな。山村留学に挑戦しようかなあ」である。

しかし、九月になって学校が始まると、時折八坂村の話をしてはいう。「ぼく、山村留学をしたんだけどね。四年生か五年生にする」仲よしの友だちができて、離れる気にはなれ

をしなくては、というあたりが今に至っている転機のようにだけ。でも「たんぼぼ」もすぐキツかったでしょ。時間的にも精神的にも。でもその頃は編集スタッフとしても動いていたわね。今仕事オンリーになっているのは、それで一家三人を養わなくてはならない重圧があるから? 秋元——それはちょっと違うわね。もちろん仕事は私一人でやっているし、時間がきたから帰りますっていう種類のものじゃないから大変だけど、実は問題はだんななのよ。

——へえ、あなたのところはもとと家事なんかフツーにやっていたんだし、彼が仕事をやめたいっていった時から、こどもの事、食事も含めて家事の事なんかしつかり話し合っていると思っただけ。秋元——そう、しつかり話し合った上に一年間は私の収入の様子をみながらの準備期間も持ったわけよ。その時から帰りが遅くなることもわかった上で、彼は予定通り仕事を辞めたわけ。

——それなのに? 秋元——そう、それなのに、帰りが遅いとかにかく不気味。話し合うと理解はできるんだけど、それでもやっぱり不気味。こどもは問題ないのね。

——それはもしや主婦症候群では? 秋元——そうなのよ。今にして思うんだけど私たちが完全な役割交代じゃなかったのね。役割というのとは違うかな。とにかく彼が稼いだ手だった間、私は子育てと言いつつ「たんぼぼ」や編集グループに入って、あんふぁんてに友人ができて、こどもと一緒にその関係

ないらしい。三月まではこの子の気持をどう留学に向かわせたらいいか、十月、会の理事長、青木先生のもとに相談に行く。「冬休みになんか集めて準備合宿をします。それに参加した子はみんな決めるようですよ」と先生はこともなげにおっしゃる。私も一度現地を見なければと子どもを放さない。十一月の初め一日入園という事で、二人で八坂村へ行って見た。センター合宿をする七期生とたつた一晩いっしょに過ごしただけで、帰りの道、は「ぼく、二年生から行く」ときっぱり言い切った。「だって八坂では目がさめたら友だちがいるんだよ。学校からうんと道草して帰ってきていいんだって」

私の帰りが遅く、学童保育からの帰り道、時には、おもちやのショールームで道草をくって、PTAのお母さんから注意を受けている子の発言である。親としては胸が痛む。12月25日から五日間、留学を望む子のための特別合宿に参加。この時は農家にも泊まり、お父さんといろりを囲んで話したとかで感激していた。二月、三月、親の方が不安になり、淋しくなり、何度も子どもの気持を打診するが、もう彼の心は八坂に向いていた。3月31日、八期生入園式。あいさつの番がきた時、は大きな声でいう。「ぼくは、八坂で、はたけしごとをしたり、お米をつくったりしたいです」

(次回は親の動機について、他の方たちの話も含めて書いてみたいと思う。)



が続いているでしょ。

ところが彼は職場と家族関係がほとんど変わったのよ。それも彼にはイヤな職場だったからね。とにかく私に比べ人間関係がせまいのは確かだと思ふ。

——こどもは既に密着保育の時期ではなくなっているし、大げさにいえば働きバチの老後と主夫の思秋期が一緒になったような状況かしら。

秋元——そうよ。早く帰ってきてくれないとさびしい、仕事の内容はわかっているけどさびしいってのはつきり言うんだもの。日曜にあんふぁんてに行けないのもそれが理由なのよ。——ふーん。その辺の事情は一応わかったわ。(みなさんもさびしいと夫に言ってみよう。でもあなた自身働きバチになつていないか? これは、もう少し考える余地ありじゃない? 秋元——それは労働時間短縮のためにバイトを入れたいと思っているし、仕事、仕事で終る気もないわ。だんなもほとんどどの仕事を探しているし、編集スタッフにもいつか復帰します。

——あんふぁんてがあるうちにきてね。秋元さんにはあんふぁんての趣意書等の写殖を頼んだり、電話などで話したりするのですが、仕事が多忙に忙しいと一年余りがたってしまった。今もし家計の心配がなくなつたとしても、彼女は主婦業にもどる気はないそう。夫と妻の両方が仕事、家事もほとんどに任せているのは本当にむずかしいんです。今の会社では、でも私にニューサイティだもの。できるぞ、きつと。

杉並区

図書コーナー

「ラブ」牧 一二 河野秀忠編著

長征社 定価千二百円（絶対高くない）
例えば「女性の自立云々」の本など頭張って読んでみるけど椎名誠の方がどうもラクだなあ、と秘かに思っている方と、トッツイーの方へ入っちゃうような方（実は私のことなのだ）こんな痛快元氣本が出ましたよ。

六人の二十代、三十代の男女がラブについて語っているのだけれど、ヤケクソの本音の迫力プラスおもしろさ。セクシーフォーラムとして間にはさんであるエピソードの一つ「ヒジョーシキな四十男」の項をチラッと紹介するので後はそれぞれ本を読んで元氣になっ

て下さい。
「オレはアノコと結婚するぞ」の雄々しい宣言とともに手に手をとって、いざホテルへ……（中略）ほのぐらゐ照明、ピンクのベッドカバーもなまめかしい一室、恐れと恥じらいに心はゆれ、愛のささやきを期待して顔うつむけるオトメの上に、突如ふりかかる大音声——キミノ障害者解放をどう思う？「……で、気がつく」とオレが一人でしゃべっている。なぜかそのパターンなのよね、フシギだろ？」（これが四十男のすることか！）

椎名誠の出会いえなかった拍手パチパチ人間がここにいます。（大山）

「猫ばっか」

絵と文 佐藤洋子（講談社）

子どもは犬か猫を飼いたいと言っている。けれど私は消極的になってしまっている。狭い敷地のわが家に犬を飼わないで済むのは気の毒な気持ちだが家を留守にする時、猫だけ置いていっていいのだろうか？ 商店街で育って今まで動物とも植物ともつき合っていない自分だから、飼いはじめたら、途中で投げ出せないから尻ごみしてしまおう。

それでせめてもの気持ちで買ったひたすら「猫」の大型絵本。たっぷりとした絵の具で描くズボンをはいた猫、花束を持った猫、ねそべったり、後ろ手で立ったり、さげんだりにしている猫、猫たち。

ページごとの短いエッセイは大人向けの文章だ。いろんな人と猫のかかわり合いや、ミラノやローマの猫の話もある。ああこの人は深く猫と共に生きていたんだなあ……と思う。短く切り取った各々の場面が味わい深い文章となっている。

三年生の上の子はシマシマのセーターを着たような猫が一番好きだと言ひ、五才の下の子は、ちょっとエロチックなセミヌード風猫が気に入った様子。私はツナギのズボンをはいた男っぽい猫が好きになった。

疲れてゆっくりしたい時、開いてみる一四〇〇円のちよっとぜいたく。（加藤）



情報コーナー

☆麦草農場

私たちの農場は、みんなが利用できる場でありたいと思っています。そのために、多くの人たちの知恵と力をあつめたいと思っています。なにか、やってみようという気持ちのあるものあつまれ！

△子と親の二泊三日▽

この農場に、親と子が集まり、時間にしばられずに気軽に働き遊ぶ時をすごしたいと思っています。独身の方も歓迎。

日時・八月六日（土）～八日（月）

イベント・映画会、キャンプファイアー、花火大会、きもだめし、カブト虫とり、ジャガイモ堀など計画中。

作業・草とり、野菜の収穫など、たのしく働きたいと思っています。

申し込み・七月十五日〇〇切

参加費・大人一泊千円、小学生一泊五百円、

幼児無料

持参・シーツ、タオル、作業着

連絡先

☆講演会及び座談会のお誘い
テーマ・「男の子、女の子の何が違う？」

講師・鈴木みち子氏（英語塾講師、雑誌「わいふ」編集者、ヤング雑誌中心に若者に向けた「性」のメッセージ多数発表）

最近あいわ出版より「性長期」を出版）

日時・七月八日（金）10時～11時

場所・深沢区民センター

参加費・3000円

保育・有り、予約制

主催・子連れ塾 おやつ代50円

子どもに性に関する悩みや子育て上の性差の問題など一緒に語り合ひましょう。参加をお待ちしております。

☆3・13総決起集会の参加者様

3月13日雨が降らなかつたら、どれだけの人が集まったのだろうか、残念でもあり、想像するに力づけられそうです。

4月14日の全体会では、会計の報告も出されました。13日集会当日の収支については、実行委員会が負うことになっており、収支結果は461557円の赤字でした。

集会の最後のしめくくりとして、この赤字額を埋めたいと思います。赤字額をうまわれれば、今後の阻止行動のためのお金として備えたいし、それを望みたいところです。

振込先（郵便振替）

東京7の74055

'82 厚生保護法改悪阻止連絡会

東京7の74055

'82 厚生保護法改悪阻止連絡会

「鉛の時代」

今や、西ドイツ映画の時代ヨノ

何しろタイトルが重い、暗い、それにただでさえ重い、キツイと言われる（事実、そのなのだが）ドイツ映画なのだから、大々的に（と言っても、ミニコミの婦人新聞など、ごく一部の知る人ぞ知るとい感じだけ）伝えられた最初は観る気が起きなかつたのです。少しづつあちこちの集会上映会で上映され、たまたま自宅の近くであったので、やっぱり一応、観ておこうと立ち寄って見たわけ。それなら、思わぬ大当たり！ 少々疲れ気味の私にとって、まさに疲れを吹っ飛ばすだけじゃなくて、魅力的なニューフォーティーを目ざしてスタートする起爆剤にもなりそうです。

まずは、一九七〇年前後のドイツ、ヨーロッパ、アラブなど世界的な日本を含めた政治状況を思い起してみたい。その頃は今日ほど「政治」という言葉にシラけてもなく、特に難しい問題でもなく、みんな新聞もちゃんと読んでたし、カタい、クラい仲間はずれにすることもなかったよね。約十三年前、あなたは何をしていましたか。学生だった、男と住んでたり、……私はOLをしてました。その同じ時代、同じ地球のドイツの二人の女性の生き方なわけです、この映画は。特に一九七七年、西ドイツでの一連の過激派の動き、例えば、マインホフとかいう人たちが

がつかまり、何とかというおエライさんが誘いかいされたけど、人質交換は不成功で、獄中で過激派が三人に同日に自殺したというあたりをうっすらと覚えてませんか。（その一九七七年の秋の事件をテーマに、ドイツの映画人が共同製作した『ドイツの秋』という映画も日本では未公開だけど、おもしろそうです）その自殺した三人の過激派の中の一人が映画の主人公の一人の女性。もう一人はその姉。しかし、そんな政治状況がテーマではなく、そんな時代を生きている姉妹の少女時代からの変化と関係性、女性をとりまく男、子ども、働き方、思想、行動などが問題提起されています。チャンスがあったら見てみたい。この映画は、前に私が紹介した『第二の目覚め』を監督したマルガレーテ・フォン・トロッタという女性の監督がつくっています。上映のときの買ったプログラムが珍しくよく詳しくシナリオも全部載っていたのです。それを読んでいて、ムクムクとエネルギーが湧いてきて、ひょっとして私たちにもつくれないかと思ひ始めたのですが……。トロッタ監督も最初、俳優だったそうで女性でもというより、女性だからこそ、私たち女性にとって核心をついた、歯がゆくない映画がつくれたとつくづく感じ入り、やってみないことにはない！と元気づけられたところでした。ずっと以前、これも図書コーナーで紹介した『花もつ女』に書かれているワークショップのことを思い浮べ、新しく女のビデオづくりのワークショップを提案したいと思っています。詳しくは次の号で。

（古知）



事務局から

●世田谷区のねこじやらの会の連絡先が辻上さんから村野 さんに変わりました。

スタッフから

●バックナンパーもらってくださいノ
毎月たまたまいく情報紙に部屋が占領されてしまいそうなので大整理をしました。といってもチリ紙と交換してしまふにはしのびなく皆さんに利用してもらえればありがたいです。グループ等での新会員呼びかけ用に、友人知人へちょっと手渡ししてと、何部か手もとに置いておけば利用できそうな方お申し出下さい。ただし送料だけはこちらに余裕がないので負担していただきたいんです。5部まで170円、10部まで240円、20部まで350円、30部まで410円程度になると思います。後払いで結構です。内容も何号から何号までの(初期のころはない号もあります。)バックナンパー何部とか、最新の号を毎月何部ずつというように指定してください。単発的な集会等での宣伝用にもどうぞ。置いておいて近所の人に話してみようというやや積極的姿勢も歓迎します。とにかくただの紙クズになっただまっている情報紙に仕事を与えてやってくたさいな。

●今月号に来期アンケートを同封しました。そのうちに、と思っていると紛失したりします。なるべく早く返送して下さいね。

●仕事人間のダンナが風邪で倒れ、三日間会社を休み寝こんでしまった。三日間のセリフ「何か世間から忘れられた感じだなー。」とかさず私「それ/それこそが専業主婦の社会との繋がりがない虚しさ、孤立感ですよ。」とまくしたてたら、形勢危うしとみたか「だから僕は君に何でもやれと言ってるじゃないか。何もやってないじゃないか。」とやけくそ気味に反撃に出た。それでも病気がきいたのかその後お酒はひかえめ、煙草はバートナー。帰日も割合早くなった。ああ、病氣さまさま。仕事人間は大病をするに限る。(三谷)

●この情報紙に載った自分の文章をシミジミ読みかえしてみても、あゝあなんてシツチャカメツチャカなのだろうと思う。思いながらもまた書いてみる。読み手のあなた、安心して書き手の方にまわってみませんか?(加藤)

●事務局の大山さんの夫が本屋を開店します。これといって特徴はないそうですが、ひとまず宣伝を、行ける人は行ってあげて。

スケジュールメモ

6月12日(日) 7月号企画会議
6月19日(日) 7月号編集会議
6月26日(日) 7月号編集作業会議
7月3日(日) 8月号企画会議
7月8日(金) 7月号発送

★入会申し込みは切手四百円分同封し、住所・氏名・電話番号・郵便番号を記入。宛名は表紙上段に記載。
★参加費は一ヶ月四百円。なるべく六ヶ月以上まとめて郵便局で。振替口座は表紙上段に。特に未納の方は至急払い込みを/休会、退会も必ず連絡を。
★事務局の電話受付は原則として月々金曜の二〜四時です。御協力を。